

## 令和5年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第六中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

##### ・第1学年

基礎・活用や全ての領域（聞くこと、読むこと、書くこと）、問題、観点で目標値を上回る結果となった。特に、単語の意味理解やアルファベットの読み書きにおける正答率は非常に高かった。1年生の現段階での基礎的な音声知識は高い割合で定着していると考ええる。

##### ・第2学年

基礎・活用や全ての領域（聞くこと、読むこと、書くこと）、ほとんどの問題、観点で目標値を上回る結果となった。特に、発音等における意識は高く前向きに取り組んでいる姿勢も評価できる。

##### ・第3学年

基礎・活用や全ての領域（聞くこと、読むこと、書くこと）、ほとんどの問題、観点で目標値を上回る結果となった。特に、場面に応じて書く英作文や、3文英作文では、目標値よりも非常に高い正答率だった。書くことへの抵抗が減り、自分が使える表現を駆使して書けるようになっていると考ええる。

#### (2) 課題

##### ・第1学年

「できないことを表す表現」の聞くことの技能が身に付いていないと考ええる。人称を問わずにできることやできないことについて聞いたり話したりする活動を設定する。

##### ・第2学年

学力差が顕著に見られ、文章を正しく書くこと、言うことが苦手である。一つ一つの文章をきちんと作り、それを定着していくことが必要であると考ええる。

##### ・第3学年

「動名詞の語形」や「比較表現の否定文」といった文法事項の定着が不十分だと考える。ただ暗記するのではなく、どんな場面で使う表現なのかを意識しながら、音とともに身に付けさせたい。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	基礎・活用や全ての領域、問題、観点で目標値を上回っている。		
第2学年	基礎・活用や全ての領域で目標値を上回っている。	目標値を基礎・活用共に上回っていた。	
第3学年	目標値を基礎・活用共に上回っていた。	目標値を基礎・活用共に上回っていた。特に活用は大きく上回っていた。	目標値を基礎・活用共に大きく上回っていた。

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値より大きく上回っている。目標値を下回った間であっても、目標値との差が-5ポイント未満であった。	全ての間で目標値を上回った。	全ての間で目標値を上回った。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全ての設問において目標値を上回っていたが、特定の基本的な語形・語法の理解を問う問題に間違いが見られた。	全ての設問において目標値を上回っていた。	全ての設問において目標値を上回っていた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ほとんどの設問において目標値を上回っていたが、特定の基本的な語形・語法の理解を問う問題に間違いが見られた。	ほとんどの設問において目標値を上回っていた。特に記述の問題で大きく上回っていた。	全ての設問において目標値を上回っていた。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を上回ったが、できないことを表す表現の書くことの正答率が低かった。自分や相手についてできることとできないことを伝え合う状況を設定し、音声から文字に起こす活動を展開する。	目標値を上回ったが、3人称と得意なことを書く問の正答率が僅かに低かった。与えられた条件で得意なことや不得意なことについて書く機会を設定する。	主体的・対話的に活動に取り組める授業を今後も継続してプランニングする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
引き続き基礎基本の	話す力の向上に繋げ	引き続き主体的に取り組めるように、話す活

<p>定着を図ると共に、一部苦手な生徒への個別の支援を行う。語形・語法の定着を高めるために、話す・書く活動をバランスよく取り入れる。</p>	<p>られるように、対話や発表などを通して、自分の考えを話して表現する力・相手に伝える方法を身につけさせる。また、自分ならどう思うかという観点をいれることにより、思考・判断・表現の能力を高めていくようにする。</p>	<p>動と書く活動をバランスよく取り入れ、生徒が主体的に活動する場面の多い授業を心掛ける。</p>
--	--	---

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>引き続き基礎基本の定着を図ると共に、一部苦手な生徒への個別の支援を行う。</p>	<p>筆記試験では図れない、話す力の向上に繋がられるように、対話やプレゼンなどを通して、自分の考えを話して表現する力を身につけさせる。</p>	<p>引き続き主体的に取り組めるように、書く活動を話す活動に繋げ、連続性のある授業を心掛ける。</p>